

「タイのさしみ」



「先生、今日、おれんうち、タイのさしみば食うたぞ」

夜、中学一年生の男の子が、大声でそう私に報告しながら、嬉しそうに寺子屋塾の教室にかけ込んで来た。

「そらあ、すごかね。何か、良かことのあったとかい」

私が聞くと、彼は息をはずませながら、嬉しそうに言った。

「おれがね、今度の間考査の英語で、良か点数ばとったけん、お母さんがタイのさしみば買ってきてみんなでお祝いばしてくれたんや。うまかったぞ、先生」

私は驚いた。彼の英語の点数は、いつも五十点に満たないはずであった。

「今度は、そげんよか点数ばとったとかい」

私は、つい聞き返していた。

「うん、五十二点もとったとよ、先生。五十点ばこえたとは初めてや」



彼はそう言って胸を張った。

聞くと、今夜はお母さんの買って来たそのタイのさしみで、お父さんと妹を含めて、一家四人でお祝いをしたというのであった。

私はその一家の夕食の光景を頭に描きながら感動した。そして、そのお母さんのすばらしさに感動したのであった。

その男の子は、百点をとった訳でもないし、九十点をこえた訳でもない。やっと五十点をこえたのである。しかし、彼にとって、初めて五十点を超えたということは、実にすごいことなのである。それだけに、その喜びも大きかったにちがいない。その子供のこころを素直に受けとめたお母さんは、なんとすばらしいお母さんであろうか。

私たちはつい「何や、五十点か」と、言いがちである。

そして、それが子供達の「やる木の芽」を摘んでしまうのである。

彼の嬉しそうな、キラキラと輝いた目を見ながら、私はさわやかになった。

何となく清々しい気分になる話ですが「光る言葉」と書いて「誉める」です。「光の言葉」というプレゼントをもらった時、人は最高の笑顔で輝けるそうです！

まだ今年も始まったばかり・・・

旦那様は奥様に、奥様から旦那様に、上司から部下に、親から子供に、大切な人に「光る言葉」をいっぱいプレゼントする年にしましょう！！
そしたらきっと自分自身も輝けるはずですよ。

P.S.

偉そうに書きましたが、本当はこの文を読んで真っ先に、もう成人した私の二人の息子の顔が浮かんで・・・「ん～しまった」と思ったのが正直な感想です。息子たちにはほとんど出来なかったけど、もし孫が出来たら、いっぱい「光る言葉」作戦を試そうと思っています（笑）

ちょうど今月は受験シーズン真っ只中～この「こころの栄養剤」が何かのプラス効果になれば最高だなあ～と思いながら「念」を込めて書きました！！

ファイト！

